

平成15年度施政方針

夢、アシスト、あまがさき。

希望と活力のみなぎるまち

第9回市議会定例会の開会に当たりまして、平成15年度の市政運営に対します所信を申し上げ、議員の皆様並びに市民の皆様の御理解と御賛同を賜りたいと存じます。

昨年12月に市民の皆様の信任を得て、市長に就任いたしましたから初めての予算案となりますが、改めまして、私に課せられた職責の重大さを痛感しているところでございます。多額の収支不足が生じている非常事態の中で、この解消と市民の皆様の暮らしを守るという極めて厳しい状況での予算編成となりましたが、ここに、私の決意も含めまして、市政運営の考え方を述べさせていただきます。

(市政運営の基本的な考え方)

まず、市政運営の基本的な考え方でございます。

日本の経済は、グローバル化のうねりの中で、景気循環からも見放されたかのようにデフレ状態が継続しております。かつての高度成長は、恵まれた人口構造が一つの要因ともなりましたが、生産年齢人口は、少子化を背景として既にピークを過ぎ、今後とも減少していくことが見込まれております。このため、産業構造面だけではなく、人口構造面から見ても、これまでのような経済成長は難しい状況に入り込んでいるとも言われております。

国におきましては、バブル崩壊後の景気対策として、公共事業の需要拡大政策などを打ち続けた結果、一時的な景気回復は見ることはできましたが、構造転換を見ないまま、今なお先行きが不透明な状況が続いております。このような現状を見ますと、本年は、90年代の「失われた10年」に引き続き、14年目に突入してしまったのではないかとさえ感じております。

尼崎市におきましても、雇用や個人の所得環境の厳しさなどを目の当たりにしているだけに、市民の皆様の不安はぬぐい去ることができず、混沌とした閉そく感に包まれているのではないかと考えております。

暗い闇に包まれたまま、全く前例のない中を手探りの状態で進んでいくような社会環境となっておりますが、これまで明るいところでは見えなかったものが、逆に、暗闇だからこそ見えてくるものがあります。

「チャンスはピンチの顔をしてやって来ています。」

減り続ける子供。これは、未来を担う子供たちを細やかに力強く育てるチャンスです。

増え続ける高齢者。これは、弱者という画一的な高齢者像を見直し、元気で経験豊富な高齢者と社会を創ることができます。

地球資源の減少、環境汚染。これは、環境への意識を高めたり、新しいビジネスを創出したりすることができます。

遅れを取っている高度情報化。これは、ネットワークの参加者と共に活動したり、どこでも欲しい情報が取れる社会を創り上げたりすることができます。

いろいろな可能性に恵まれている時代。チャンスを逃すことなく、一歩ずつではあり

ましても、また、多くの困難がありましても着実に挑戦してまいりたいと考えております。

「公共サービス」の分野におきましても、人口や産業などの社会構造や経済状況の変化、個人の価値観の多様化など激しく変化している時代を背景に、ますます多くのサービスが求められてきております。一方で、かつての豊かな財源を背景とした「行政サービス」が限界点を超えてしまい、これからは、同じような水準では成り立っていかないことも明らかです。しかし、歳入の減少に併せて、必要なサービスの提供までもやめてしまうという考え方ではなく、工夫することによって何とか実現ができないものか、そのような第三の道を探してみる必要があります。

地方公共団体はローカル・ガバメントという言葉で表現されますように、権力的な行政の意味合いが強く感じられますが、地方自治の原点を振り返って見つめ直しますと、「住み、集う人たちと共に力を合わせて創り上げていく。」ということに突き当たります。

それは、市民、事業者、NPO、行政、それぞれが自立しながら共に公共サービスを受け持ち、自らできることは自ら行う、自らの力でできないときは共に助け合う、それでも解決できないときには、貴重な税でカバーする。このような互いに補い合う考え方に基きまして、私たちの尼崎市を支え合っていくことではないかと考えております。

中でも、これからも増え続けると考えられる公共サービスの一端を担っていく大きな可能性を持っているのがNPOではないかと考えております。これは何も法人格を持っている団体だけではなく、ボランティアや趣味のグループ、任意に作られた団体など、いろいろな参加の形を含めて幅広くとらえていく必要があります。

私は、この多様なボランタリーセクターや事業者、市民の皆様と共に尼崎市の公共サービスを担っていき、助け合いながら、一人一人が描いている夢の実現に向かって進んでいけるまち、「夢、アシスト、あまがさき。」を目指してまいります。

これを実現していくためには、市民の皆様との意見交換におきまして、行政側が必要性を説明し、受け答えだけで終わってしまうのではなく、それぞれが情報を共有したうえで、意見のキャッチボールを繰り返し、共に考えながら議論を深めていく姿が求められます。これは、物事の結果だけを重視したものではなく、共に考えていくというプロセスが一番大切にしようとするものです。

最初の一步は、様々な情報を出し合うところから始まります。市民の皆様の判断材料を増やしていくため、これまでの「情報の公開」から一歩進めた「情報の開放」に取り組んで、市政への参加意識と責任を含めて共有してまいりたいと考えております。

ポイントは、参加の機会をいかに拡大できるかにかかっております。このため、直接お会いする face to face のコミュニケーションに加えまして、高速インターネットや携帯電話の普及で身近になりましたITを活用するなど、積極的に市民の皆様と意見交換を行う機会を拡大してまいります。

次に、経営の改善でございます。

尼崎市をこれからも持続させ、発展させていくためには、構造的な改革は避けて通ることができない緊急の課題だと認識しております。

行財政の改革は、単に収支を均衡させることだけが目的ではありません。限られた財源を効果的、効率的に活用していくため、収支状況と行政サービスの効果を常に比較しながら事業を選択し、個人や民間では提供することができないサービスに集中していくことにあると考えております。

また、市民満足度というものを判断していく場合には、利用者である「顧客の観点」と、税を納めている「納税者の観点」という両面からとらえていく必要があると考えております。

このような考え方に立ちまして、経営再建プログラムを検証し、新生尼崎を目指すリバイバルプランとして一定の見直しを行ったところでございます。今後、このプログラムを基本といたしまして、毎年度、事業の点検、再構築を行い、精度を高めつつ、一方で、政策を考えていく段階から市民の皆様と情報の共有化を進め、説明責任を確実に果たしながら、意見を把握し反映できる仕組みを作り上げ、尼崎市の再生に全力を尽くしてまいりたいと考えております。

市民の皆様には大きな負担をおかけする非常に厳しい内容ではございますが、今後、5か年をかけて経営再建を一步ずつ確実に進めていく中で、尼崎市の財産である人づくりを重視し、未来の子供たちから預かっている環境をしっかりと守りながら、あらゆる人たちが個性豊かに自分らしく生きることができ、創造性のある産業が生まれ育つ、そのような「希望と活力のみなぎるまち」を実現してまいりたいと考えております。

これは、私自身のまちづくりの夢、ビジョンではございますが、これから市民の皆様と議論を繰り返しながら、まちづくりの将来像を創り上げてまいります。

多様な個性や活動を認め合いながら、できる範囲のことをお互いがきっちりと成し遂げることによって、このあまがさきが夢をアシストしていけるまちにどんどん変化していく。このようなまちに向けて市政を推進してまいりたいと考えております。

(平成15年度予算)

次に、平成15年度の予算について申し上げます。

予算編成に当たりましては、経営再建プログラムの改革改善項目の実行や、編成過程におきまして、可能な限り経費の削減と財源の確保に努めてまいりました。

しかし、厳しい経済環境を反映して歳入が大幅に落ち込む一方で、伸び続けている生活保護などの扶助費や公債費の増加などによって大幅な収支不足が生じております。このため、歳入予算に収支不足額約 23億円を計上し、形式上の収支均衡を図ってはおりますが、実質上は、昭和52年度以来の、いわゆる赤字予算の編成とならざるを得ないものとなりました。

財政状況は危機状態にあります。現在の厳しい社会情勢を踏まえ、市民の皆様の暮らしを守っていくために、また、尼崎市の将来に備えていくために、必要で欠くことのできない事業を厳しく選択して計上したところでございます。

平成15年度以降も厳しい状況が見込まれており、改めまして、再建期間中の最終年度には、収支均衡を必ず実現するよう、今後とも、経営再建に向けて全力で取り組んでいくことを固く決意しているところでございます。

公営企業におきましても、厳しい財政状況下にあります。引き続き経営の効率化に取り組んでまいります。

予算額につきましては、

一般会計	1,886億	1,432万円
特別会計	2,642億	2,749万円
企業会計	431億	3,630万円
合計	4,959億	7,811万円

となり、予算総額で0.1%の増、一般会計におきましては、4.6%の増となっております。

(平成15年度主要施策)

次に、平成15年度の新規事業を中心といたしました主要施策について申し上げます。

尼崎市では、市民の皆様自らが参加し、あるいは、多くのボランティアの熱意に支えられながら、各世代で、また、世代間を超えて多様な文化活動やスポーツ活動が営まれております。これらの活動や教育、産業、福祉、環境などすべての活動や街の姿が相まって、歴史が交差しながら「尼崎の文化」が形作られていくのではないかと考えております。

私にとりまして初めての予算編成は、当初から大幅な収支不足が見込まれた一層厳しい財政状況の中で、非常に困難なものとなりましたが、経営再建を最優先としながらも、より良き文化を創り上げ、暮らしやすいまちづくりに向けて施策を推進してまいります。

まず、「人づくり」でございます。

可能性を一杯秘めた宝物。これからの新しい時代を切り開いていく主役は子供たちです。

今世紀はあらゆる分野で知識の競争になり、体にも頭の中にも汗をかくことが求められ、知的資産が優位さを決めてしまうとまで言われております。子供たちの基礎学力を向上させていくため、非常に大切な時期であります小学校中高学年を対象としまして、全校に指導補助員を派遣してまいりますほか、特に、きめ細やかな指導を行っていくため、小学校1年生の少人数学級の実現に向けて取り組んでまいりますとともに、教育効果を高めるため、引き続き、小・中学校の適正規模と適正配置の実現に取り組んでまいります。

グローバル化が進んでいる社会において、共通語となっている英語が使えることは、大人になって活躍していくために非常に大きな力となります。子供たちに日本と違う文化を肌で触れさせるため、英語を母国語とするネイティブスピーカーを全小学校に派遣してまいります。

特別な支援を必要としている児童が増えつつあり、一部の学校で学級運営が難しくなっている状況にあります。対象児童の健やかな成長と安定した学級運営のため補助員を配置してまいります。

学年が違う児童が交流し、社会性を身に付けながら、安心して平日の放課後を過ごすことができますよう、自由に参加できる場所を年次的に全小学校へ拡大してまいります。

学校の改修につきましては、ミニ市場公募債を発行し、市民の皆様のお力を得て整備してまいりますほか、PFI方式など民間能力を最大限活用できる方向で検討してまいります。

女性の参政権の獲得。女性2000年会議で幕を閉じた20世紀はまさに女性躍進の100年間でした。しかし、21世紀に入りましても、社会のすべての分野で、性別によるデメリットが確実に解消されてはおりませんので、男女共同参画条例の制定に向けて、市民参加の手法で取り組んでまいります。

これらを通じまして、尼崎市の大きな財産である「人」を育てまいりたいと考えております。

次に、「雇用と産業」でございます。

厳しいイストラ、ままならぬ再就職。明日への生活を心配し、不安な日々を送られている多くの市民の方々がいらっしゃいます。

市内の雇用動向調査では、潜在的な需要が見込まれておりますことから、これを掘り起こし雇用に結び付けていくため、求人開拓コーディネーターを設置してまいりますほか、

雇用のための助成金の活用やワークシェアリングについてのセミナーを開催するなど、関係団体と共に雇用の維持・創出の支援に努めてまいりますとともに、緊急雇用対策としまして、市の事業の一部を民間で実施していただきます。

特に雇用環境が一段と厳しい状況に置かれております中高年の方々への支援としまして、尼崎中高年事業株式会社と尼崎市シルバー人材センターに対して事務の委託を更に進めてまいります。

金融機関による貸し渋り、貸しはがし。中小企業の経営環境は、ますます厳しさを増してきております。

中小企業の皆様の事業活動を支援し、倒産という最悪の事態を避けるためにも、融資あっせん制度の貸付条件を緩め、金利を引き下げるとともに限度額を拡大してまいりますほか、ベンチャー企業の創業を支援していくため、一番の障害となっております資金調達のための金利を更に引き下げてまいります。

頼もしい工業、にぎわいの商業。地域経済が自立的に発展しながら、市内の活性化と雇用の促進に結び付けていくことが求められております。元気あふれる尼崎の産業の展開を目指し、地域経済活性化のための方針を策定してまいります。

新しい産業の育成と誘致を行っていくため、インセンティブを持たせた方法を検討してまいりますとともに、産業施策を充実させていくため、柔軟に対応しやすい公益法人のメリットを生かせる尼崎市産業振興協会へ事務を委託し、地域産業の活性化を推進してまいります。

これらを通じまして、生き生きとした強いあまがさきを目指してまいりたいと考えております。

次に、「地域福祉」でございます。

住み慣れた地域、御近所の温かい声。愛する尼崎市でいつまでも日々の生活を心穏やかに送りたいものです。

超高齢化社会を目の前にして、高齢者や障害者、誰もが自立しながら助け合っていくことができる地域社会の仕組みを早急に作り上げていく必要に迫られております。尼崎市の地域の特性に応じたものとしまして、ワークショップを取り入れながら地域福祉計画を策定してまいります。

在宅生活が難しいことから、特別養護老人ホームへの入居を希望されている待機者の減少に向けて、西武庫団地内で予定されている民間法人の施設整備を支援してまいります。

不自由な日常生活。手助けを求めている方に対しましては、地域社会のすべての構成員ができる範囲で援助を行っていく必要があります。

元気な高齢者の就労と生きがいを促進し、元気寿命を延ばしていくため、尼崎市シルバー人材センターを通じて高齢者の日常生活を援助してまいります。

新年度から障害者の福祉サービスが支援費制度に変更されるため、スムーズな移行に力を注いでまいりますとともに、県の事業廃止に伴います緊急一時保護の制度につきましては、市が主体となり補助事業としまして引き続き実施してまいります。

特定疾患などの難病者を介護している方が、やむを得ない事情で御家庭を離れるときに安心できますよう、医療機関におきまして短期入所を実施してまいります。

お体の不自由な方が外出しやすいよう、人にやさしいノンステップバスを引き続き導入してまいります。

愛する子供への不安。回復期でありましても、病気の乳幼児をそのままに出かけるこ

とはできません。外出せざるを得ないときに保護者の方が安心できますよう、医療機関での保育を拡大してまいります。

子育てと仕事の両立を支援していくため、待機児童の解消と子供たちの保育環境の改善に向けて、民間法人への保育所の移管を行い、多様な保育ニーズに対応してまいります。

地域と共に支える子育ての仕組みを育んでいくため、先導的な活動をされている団体を支援してまいります。

これらを通じまして、共に助け合うあまがさきを目指してまいりたいと考えております。

次に、「環境」でございます。

青い空、跳び跳ねる魚。かつて待ち望まれていた環境が戻ってきております。

環境問題は、循環を基本とした社会経済システムへの転換や人の健康、自然との共生など幅広い範囲にわたっておりますことから、尼崎市の構成員すべてが意識を持って行動しないと持続していくことができないものです。環境基本計画に基づいた具体的な行動指針を策定するため、市民、事業者を交えた環境会議を設置してまいります。

ごみの減量やリサイクルなどを推進していくため、市役所本庁舎、支所、美化事業部、取得予定の水道局でISO14001の数値目標に基づいて取り組んでまいりますほか、引き続き、クリーンリサイクルタウンを整備してまいります。

遊び心を持って、楽しみながら活動されている市民の皆様の大きな力によりまして、西武庫の「ホタルの里」や園田の「自然と文化の森」など貴重な自然を育む活動が定着してきました。市内の様々なところで広がりを見せている水や緑の環境面での活動を支援してまいります。

「尼崎21世紀の森構想」につきましては、市民の皆様に十分な情報を提供し、共に考えながら都市の再生に向けて取り組んでまいります。

これらを通じまして、未来の子供たちから預かっている環境を維持・創造して引き継いでいけるよう、水と緑のあまがさきを目指してまいりたいと考えております。

次に、基盤整備となります投資的事業につきましては、震災復興事業に引き続き取り組んでまいります。他の事業につきましては、継続事業の休止や先送りも含めまして可能な限り圧縮・抑制に努め、必要最小限の範囲で実施してまいります。

(公開と参画)

次に、これらの事業を推進していくための開かれた市政について申し上げます。

現在の厳しい社会経済環境と市財政の危機は、「市役所は市民のためにある。」「職員は市民のためにいる。」という原点に立ち返り、これまでの行政のシステムを大きく変革させていくチャンスです。

これを実現していくための手段としまして、まず、開かれた市政の前提となります情報の開放への取組でございます。

可能な限り情報への垣根を取り除いていくため、現在の公文書公開制度をどなたでも請求することができる無料の制度に改めてまいりますとともに、外郭団体につきましても公開がなされるよう働きかけてまいります。

事業の有効性をわかりやすく示していくため、評価委員会を設け、行政内部の評価だけでなく、外部の専門家による評価を実施し、その結果を公表してまいります。

市政の情報を私自身の思いを含めてお知らせするため、定期的な記者会見を開催してまいります。

市政の透明性を示していくため、ガラス張りの市長室を設置いたしますとともに、外からは見えない世界となっている入札会場を公開してまいります。

次に、市政への参加機会を拡大していく取組でございます。

市民の皆様の意見を市政に反映させていくため、重要な計画などを策定する際には、パブリックコメントを義務付けてまいりますほか、共に考え、議論を深めていくワークショップを取り入れてまいります。

市政についてじっくりと語り合うため、市内各地域における車座集会や市長室でのオープントークを実施してまいりますほか、これまで市政への参加機会の少なかった方を対象とできるインターネットモニター制度を導入してまいります。

次に、行政の体制の整備でございます。

現代は、変革に対して教科書のないままスピーディーに挑戦し続けていくことが求められている時代であり、前例を踏襲するような仕事の進め方はもう必要とされません。

すべての職員が仕事の価値と本質を理解し、自分から進んで課題を発掘し処理していく力を付けていくため、事務事業評価を仕事の改善に反映いたしますとともに、品質管理の手法を取り入れた全庁的な改革改善運動に取り組んでまいります。

「即決プロポーザル運動」と名付け、職員が担当する業務を超えて、市政全般に対する改善を提案する制度を導入してまいります。

地方分権の進展の中で、社会環境の変化に的確に対応することができるよう、政策形成機能の向上に努めてまいりますとともに、チャレンジする職員を高く評価し、特に、女性職員の能力と意欲が職務に合致するよう育成していくなど能力が生かせる職場風土を作り上げてまいります。

共にまちづくりの基盤を創り上げていくため、市民活動の支援策の検討に取り組んでまいりますほか、成果目標を設定した新しいまちづくりへの道筋を示すビジョンづくりを進めてまいります。

以上、平成15年度の市政運営の考え方を申し上げます。

私が最近、強く心を引かれた言葉に、「思いはかなう。努力する人間を運命は裏切らない。道は必ず切り開ける。」というものがございます。

あきらめてしまったら、そこで終わってしまいます。苦しい、厳しい社会環境だからこそ、この言葉を胸に、尼崎市の将来に続く道を皆様と共に切り開いていくことに挑戦し続けたいと考えております。

どうぞ、議員の皆様、そして市民の皆様、私の意のあるところをお汲み取りいただきまして、温かい御支援と御協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。